

UNICORNとGroveの欧文書体

グラフィックデザイナー／武蔵野美術大学教授 白尾隆太郎

欧文書体は、金属活字の時代から基本 26 文字(大小文字や&などの約物を入れるともっと多いのだが)の形に合わせて活字が設計され、理想的なスペーシングを考えることで、美しく読みやすい文字組を実現してきた。欧文活字は、M を最大の文字幅として、それを 16 等分したユニットを使い、I と M では活字の幅自体がそれぞれ標準化され、字間の均一性やワード間の適切な関係がデザインされてきた。そんな欧米の書籍の文字組を見るたび、私はいつも均一で揃った美しい文字組に魅了されていた。

新教科書では、ユニコン、グローブとも旧版とは本文書体を一新した。ユニコンでは、Sabon という書体を使用した。Sabon は 1960 年頃、『ペンギンブックス』のタイプフォーマットの責任者だったドイツのヤン・チヒョルトによって設計され、現在ではライノタイプ社からデジタルフォントとしてリリースされている。比較的歴史の新しい書体であるが故にその完成度は非常に高いものがある。ドイツ語は構造上、単語の長さが増長していく傾向があり、そこが設計上の重要課題でもあった。コンパクトにしかも読みやすく、エレガントであることが最大の特徴というこ

とが言える。デジタル版の Sabon を使っていて、基本的な文字づめや行長全体での文字間設定、文字間の接近許容量やワード間の設定など細やかな指定に柔軟に対応できる精度を実感した。

一方グローブでは、優しさと柔らかさを出す必要があり、今回は本文書体に Baskerville という書体を使用している。ちょうど古典的なローマン体とモダンなローマン体の中間に位置する書体で、1750 年頃イギリスのジョン・バスカービルによって設計された。その後何度も復刻を重ね、現在のデジタルフォントに継承されている。デジタル組版における扱いは Sabon と同様なのだが、古典的な書体が持つ特徴が、単語となり文章に組み上がると、Sabon とは異なった素朴な雰囲気醸し出してくれる。

日本の英語教科書では Cetry School Book や Times Roman などが多く見受けられる。くせがない、読みやすいなど教科書として求められる条件を重視した結果なのかも知れないが、文字組に 40 年近く関わり続けてきたデザイナーとして、英語の基本となる教科書の文字組を、欧米で出版されている書籍と比べても引けを取らないものにしていきたいと考えている。

This very paragraph that you are reading is set in Sabon, which also comes from Germany. It is not the most beautiful type in the world, nor the most original or impressive. It is, however, considered one of the most easily read of all book fonts.

Sabon Next LT Pro Regular

This very paragraph that you are reading is set in Sabon, which also comes from Germany. It is not the most beautiful type in the world, nor the most original or impressive. It is, however, considered one of the most easily read of all book fonts.

Baskerville 10 Pro Regular

English

English